

外国人の見た鵜飼 ～英国エドワード皇太子鵜飼観覧に着目して～

瀬戸敦子

岐阜女子大学 文化創造学部

(2020年11月11日)

Cormorant Fishing on the Nagara River from a Foreigner's Perspective — Focusing on Prince Edward's Visit —

Department of Cultural Development, Faculty of Cultural Development,
Gifu Women's University, 80 Taromaru, Gifu, Japan (〒501-2592)

SETO Atsuko

(Received November 11, 2020)

要 旨

岐阜を代表する観光資源である長良川鵜飼は、ユネスコ無形文化遺産登録へ向け様々な分野からの研究が行われている。また、より多くの観光客を呼びこむための取り組みが行われているが、一方で新たな観光的魅力を探る必要性も叫ばれている。

本論では、その一つの起点として、国際観光資源であった長良川鵜飼を1922年当時の英国皇太子エドワードが観覧した時の様子を考察したものである。

キーワード：長良川鵜飼，観光資源，英国，エドワード皇太子

I はじめに

岐阜を代表する観光資源である長良川鵜飼は、ユネスコ無形文化遺産登録を目指しさまざまな分野から研究が行われている。観光鵜飼として見出され、今なお国内外から評価される鵜飼であるが、観光的視点からの研究は十分ではない。

観光ガイドブックや観光資源を紹介するホームページにおいて、名所の解説にはその地を訪れた著名人の様子が紹介されることがある。本研究対象である長良川鵜飼も同様である。わが国の歴史上名を遺す戦国武将や世

界的な喜劇王¹⁾らの名前が載る。これら著名人が訪れたという潜在価値が、より名所の価値を高め、観光客を喜ばせるきっかけとなるであろう。いわば著名人をその名所の紹介に登場させることは、直接的な宣伝効果を生み出し、観光対象そのものの価値を増大させることにつながっているといえるのではない。

鵜飼観覧船事務所製作の長良川鵜飼ホーム

1) 世界の喜劇王とされるチャールズ・チャップリン(1889-1977)は、計4度日本を訪れている。そのうちの1936年と1961年の2度、ぎふ長良川鵜飼を観覧した。

ページには、当時の英国皇太子であるエドワードの鵜飼観覧についての記述がある。英国ではかつて王室鵜飼が行われており、1922年エドワード皇太子鵜飼観覧を知らせる英国各地の新聞記事には「鵜飼が再び英国でよみがえるのか」と報道された。

本稿は、英国人のみた鵜飼、なかでも1922年に訪日したエドワード皇太子の鵜飼観覧に注目し、観覧の経緯や日英両国での観覧報道記録を整理することを目的とし、すでに評価される観光資源である長良川鵜飼を異なる角度から観てみたい。

II 日本における鵜飼

わが国に現存する鵜飼は、12カ所である。現存する鵜飼として、1300年以上の歴史を誇るのが長良の鵜飼であり、「鵜飼といえただれでも長良川を思いうかべるほど」といわれ、1952年には、国際観光資源となった。

表1 わが国の鵜飼実施地域一覧

	名称	所在地	方式	河川名
1	石和	山梨県笛吹市石和	徒歩鵜	笛吹川
2	木曾川	愛知県犬山市・岐阜県各務原市	船鵜飼	木曾川
3	長良	岐阜市長良	船鵜飼	長良川
4	小瀬	岐阜県関市小瀬	船鵜飼	長良川
5	嵐山	京都市左京区嵐山	船鵜飼	保津川
6	宇治	京都府宇治市	船鵜飼	宇治川
7	有田	和歌山県有田市	徒歩鵜	有田川
8	大洲	愛媛県大洲市	船鵜飼	肱川
9	三次	広島県三次市	船鵜飼	江の川
10	岩国	山口県岩国市	船鵜飼	錦川
11	原鶴	福岡県朝倉市杷木	船鵜飼	越後川
12	日田	大分県日田市	船鵜飼	三隅川

一般的に鵜飼漁をおこなう者を「鵜使い」と呼ぶのに対し、長良川で行なわれる鵜飼にのみ「鵜匠」の称号が与えられている²⁾。かつて織田信長から「鵜匠」の地位が与えられ、

2) 宮内庁式部職であり、長良および小瀬鵜飼は唯一皇室御用の鵜飼である。

その後尾張藩からの保護へとつながった。加えて織田信長は鵜飼を、人をもてなすために「魅せる鵜飼」として活用した人物でもある。1569年6月、武田信玄の使者を迎え「岐阜の河に鵜匠を集め、鵜を使わせて見せ、帰りには、鵜飼で漁獲された鮎を土産に持たせた」という。丸山(2015)は、信長の鵜飼の観光機能に着目し、評価した。

かつては生業としての鵜飼であったが、わが国に残る現12カ所の鵜飼業は観光の側面を前面に出し、「夏の風物詩」として各地で観光事業としての取り組みが行われている。

III 英国における鵜飼

16世紀末頃にイエズス会派の宣教師らによって鵜飼がヨーロッパに広まったとの仮説があるが、はっきりした証拠が残っていない。しかしながらヨーロッパ諸国の中でも特に歓迎されたのが、英国である。

1. スポーツとしての鵜飼

英国で親しまれた鵜飼といえども、実際の所、庶民レベルではなく、英国王室、なかでもジェームズ1世³⁾が個人的趣味のひとつとして楽しんだという記録が残っている。

わが国の鵜飼は、前述した通り生業としての鵜飼が始まりであるが、英国では「スポーツとしての鵜飼」であった。そのため鵜が獲物を獲るといふ狩りに楽しみを求めたのであり、獲った獲物は副産物であり、捉えた魚を食したという記録は今の所確認されていない。

記録上初めて鵜が登場したのが、1608年のことである。ジェームズ1世がノーフォーク州テットフォードを訪れた際、教会の尖塔

3) イングランド王(在位1603-1625)スコットランド王としてはジェームズ6世(在位1567-11625)

に留まっていた3匹の鵜がジェームズ1世を迎えた⁴⁾。その後1610年には、ヴェルテンブルグ公国のフリードリッヒ公が鵜飼を観覧したとの記録が残る。

ヨーロッパにおける鵜飼の歴史をまとめたBeike (2012)によると、当時ジェームズ1世は、鷹匠であったジョン・ウッドを *a Master of Cormorants* と呼び、鵜の飼育や訓練をさせていたという。またジェームズ1世は、訓練させた鵜を gift として1619年にはローヌ公、1624年にポーランド王へ贈っている。これらはすべて魚を獲るための鵜として贈呈され、フランスのルイ8世へも贈られた。英国の鵜匠は、鵜の贈呈に伴い、飼育・管理方法の伝承も行っていったとの記録が残る。

このように、西洋諸国を繋ぐ文化交流のひとつとして鵜飼が利用されたわけだが、英国の鵜飼は長くは続かなかった。

ジェームズ1世の娯楽の一種としてはじまった鵜飼は、*Royal Cormorant Fishing* (=王室鵜飼)にまで発展し庇護を受けたものの、1625年チャールズ1世即位後、1642年の市民革命、1666年ロンドン大火によって深刻な財政困難となり王室鵜飼は廃絶した。

その後1846年フランシス・ヘンリー・サルヴァン⁵⁾は、友人E.C. ニュウカムの鵜飼に刺激され、1年後の夏には、訓練されていない若い鵜を「ロッテルダムのさる放鷹クラブから」入手し、自らの鷹の飼育法を改良しながら鵜を育て上げたという記録が残り、少数の鷹匠らが鵜飼を行っていたという。

可児 (1966) は「ジェームズ一世以後少数の鷹匠の間で継承されたものかどうか、なお

研究の余地がある」と見解を述べたものの、Salvin 以降ヨーロッパでの鵜飼が「ほぼ廃れたことは明白である」という。

2. 鷹狩の技能を生かした英国の鵜飼



図1 英国での鵜飼のようす
出典: *Fishing with Cormorants* (2018)

放ち鵜飼か繋ぎ鵜飼か、徒歩鵜飼か船鵜飼かというわが国の鵜飼技術・方法を基盤とし当時の英国で発展した鵜飼の方法がどうであったかを断定することは困難であろう。

史実としていえることは、英国の鵜飼の方法に鷹狩の技能を活用したことである。可児は、「鵜飼と鷹狩は、狩猟鳥を飼育訓練し、その鳥の自律的行動によって目的とする獲物をうる点で共通している」と分析し、17世紀のヨーロッパの鷹狩の技法が鵜飼の技法として大いに参考にされたのは「自然のなりゆき」という。

鷹狩の技術を応用している顕著な方法が鵜の搬送である。飼育小屋から漁場へと運ばれる際に革製の目隠しをされ、漁場につくと目隠しを外す。そのため鵜が移動中おびえることはなかった。

また「魚が終わると、ウは呼び寄せられ、手袋をはめた飼い主の手で鷹の場合のように運ばれた」とし、鵜匠の拳に鵜をとませた。わが国の鵜飼では、魚が終わった後鵜匠は鵜を拳ではなく掌に乗せる。

わが国の鵜飼にはない方法が当時の英国で

4) “welcomed…by three cormorants on the church steeple” (本文筆者訳)

5) 鷹匠または鵜匠。1817-1904, 著書 *Falconry: its Claims, History, and Practice* (1859) では鵜飼の様子を紹介した。

は用いられていたことが分かる。

IV エドワード皇太子の鶺鴒観覧記録

1. エドワード皇太子



図2 エドワード8世(1894-1972)
 出典: <https://kingedwardviii.tumblr.com/>

のちのエドワード8世、「20世紀最大の恋愛事件」となる「王冠をかけた恋」で有名となった英国皇太子エドワード⁶⁾は、1919年大英帝国周遊の特派⁷⁾として世界中を旅し、その一か国が日本であった。

この大英帝国周遊を通して、エドワードは皇太子として英国だけでなく訪れた国々で熱狂的な歓迎を受け、端正な顔立ちと皇太子としての立居振舞として人気を博した。

6) 全名: Edward Albert Christian George Andrew Patrick David

エドワード8世(1894-1972)は、旅行好きとしても知られており、皇太子時代には4回の外遊に出かけ、当時の植民地を含む45か国を訪問している。父ジョージ5世の死去王位を継承したが、当時離婚歴のあるアメリカ人女性と結婚するため、在任期間325日で退位した。退位後の称号はウィンザー公爵

7) 当時の大臣ロイド・ジョージ卿は、皇太子への教育の一環として大英帝国周遊という帝王学を提案した。これは「皇太子を海外に特派することで、第一世界大戦で英国が果たした役割を印象づけるという大役」であり、エドワードは見事役割を全うするのである。

2. はじめての日本訪問

エドワード皇太子のわが国はじめての訪問は、1922年4月12日から5月9日のことである。レナウン艦にて横浜港到着後、東京、日光、小田原、湯本・箱根、京都へ移動し、4月28日には琵琶湖御清遊後岐阜を訪れ、その日のうちに京都へ戻っている。その後は、京都、奈良、神戸、大阪、高松、広島訪問後、レナウン艦で鹿児島へ渡り、帰国の途につく。

皇太子の訪日記録として、『英皇太子殿下御来朝記念寫真帖』が同年出版された。公務以外では、浜離宮で鴨狩、相撲観戦、ゴルフやテニス、京都では保津川川下りや奈良では鹿の餌やりを体験した。

3. 鶺鴒観覧のようす

表2 長良川鶺鴒観覧時のスケジュール

16:50	彦根駅出発
18:15	岐阜駅到着
	自動車にて鶺鴒乗り場へ
18:35	乗船
20:05	古津到着
21:55	下船後岐阜駅へ
22:10	岐阜駅出発
翌1:00	京都駅到着

皇太子の訪日スケジュールは、横浜・東京から西へ移動している。しかしながら、4月28日のみ京都から滋賀・岐阜を日帰りし、琵琶湖御清遊および長良川鶺鴒を観覧した。

鶺鴒観覧が皇太子の旅程に組み込まれた理由を探ると、『英皇太子殿下御来朝記念寫真帖』には、おじにあたるコンノート殿下⁸⁾の大正8年御来遊時、「深く何時も思ひ出の種となつた長良川鶺鴒に就て御聴及びがあつた」ため、今回の皇太子「御来遊の御日取りの中にも此上なき御慰みの一として」数えられたとある。なお他の訪問先については、皇

太子からのお聴き及びがあったとの文言は添えられていない。

訪問時の岐阜市は、無数の日英国旗と紅白のダンダラ幕で飾り立てられた陸橋や造花であしらわれた駅前の大緑門、約1万4800人の市民が出迎えたとされ、この賑わいぶりは「岐阜開市以来稀なる賑わひ」であった。

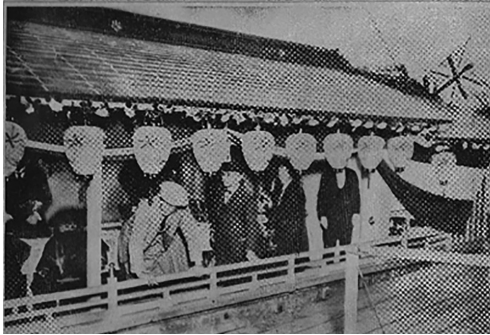


図3 エドワード皇太子鵜飼観覧のようす
出典：英皇太子殿下御来朝記念寫真帖

盛大な歓迎を受けたエドワード皇太子一行は、紫ちりめんの幕を張り、岐阜提灯と造花薔薇で美しく飾られた「迎鶴舟」に乗船し、供奉船2艘、料理船など計8艘に分乗し古津へと移動し、歓迎の花火が打ち上げられた後、鵜飼を観覧した。12羽の鵜を巧みに操る鵜匠を目の前に、「珍しきものよ」と御喜びになり、夜が更け来るとも鵜匠が鮎を吞ませたり吐かせたりする模様から最後の総がらみまで熱心にご覧になったという。

滞在時間約4時間という非常に短い時間ではあったが、エドワード皇太子の長良川鵜飼観覧の様子は、日英国それぞれの新聞社や当時のジャパントーリストビューロー機関紙『ツーリスト』⁹⁾で大きく紹介された。

8) 全名: Arthur William Patrick Albert (1850 - 1942) エドワード7世の実弟。日本ではコンノート殿下と呼ばれ、1890、1906、1912、1918年の計4回日本を訪れている。長良川鵜飼を観覧したのは、大正天皇へ英国国王より送られた元帥杖を捧呈のために来日した1918年6月30日である。名古屋から自動車にて岐阜を訪問し、古津漁場にて「鵜飼の壮観を台覧」した。

4. 日英両国での鵜飼観覧報道

わが国のみならずエドワード皇太子の滞在中の様子は、訪問以前から新聞各社で報道されている。皇太子の訪問する日本各地の様子を首都ロンドンのみならず地方新聞に至るまで紹介した。

スコットランドのアバディーン地方新聞 *Aberdeen Press & Journal* やイングランド中部に位置するシェフィールドの *Sheffield Daily Telegraph*、英国西南地方発の *Western Morning News*¹⁰⁾ といった地方新聞社は皇太子の鵜飼観覧を同年5月1日付の新聞で伝えている。

図4は調査した中で最も大々的に報道されていた新聞記事である。同年4月22日付の *Illustrated London News* 紙によるものだが、両面見開きで、“*WILL THE MASTER OF CORMORANTS BE REVIVED? FISHING BIRDS THE PRINCE OF WALES WILL BE SHOWN IN JAPAN*” と題し、かつてジェームズ1世が鵜飼という名のスポーツに魅了された史実やエドワード皇太子の日本訪問で最も興味深くピクチャレスクな訪問先は鵜飼であろうと述べ、皇太子が英国に戻った際には、王室鵜飼が復活するかもしれないと書かれている。

東京朝日新聞大正11年4月29日付の記事には、「永き御憧れの鵜匠の功を御覧」とあり、皇太子の動向が記される。前述した通りコンノート殿下から事前に長良川鵜飼についてのお聴き及びがあり、皇太子自ら望んだ長良川

9) *THE TOURIST* Vol.X No. 11 Consecutive No.54-56 “THE PRINCE OF WALES AND THE J.T.B.” では、エドワード皇太子の日本滞在中の動向を紹介する。長良川鵜飼観覧の様子は、約1ページにわたり伝えられ、鵜飼を *picturesque entertainment* と呼ぶ。

10) 絵入りロンドン新聞 *Illustrated London News* は、ビクトリア女王時代に人気を集めた日曜紙であり、世界で初めてニュースをイラストレーション入りで報じることに主眼を置いた週刊新聞である。



図4 *Illustrated London News*紙による長良川
鵜飼に関する記事 (1922.4.22付)

鵜飼鑑賞をいかに楽しまれ興味深かったかを垣間見ることができる。

V おわりに

本稿では、衰退したとされる英国の鵜飼を外観したうえで、1922年英国皇太子エドワードによる鵜飼観覧の経緯やようす、日英報道の記録を整理した。

当時の様子を研究する中で、エドワードが自身のおじにあたるコンノート殿下より長良川鵜飼について御聴及びがあり、来遊時には日取りの中に入れるようにとの申し伝えがあったとし、これほどまでにエドワードが鵜飼にまなざしを注いでいたかが分かった。

また、日英両国のエドワード皇太子による鵜飼観覧の様子が盛大に報道されており、わが国のみならず英国庶民にも広く長良川鵜飼が知られたことであると推測できる。

今後は、エドワード皇太子鵜飼観覧のきっかけとなったコンノート殿下の観覧記録や他著名人による鵜飼観覧の詳細についても調査・研究を深めていきたいと考えている。

参考文献

- 1) JACAR (アジア歴史資料センター) Ref. B 03040771000. 外務省情報部情報/情報部関係写真関係雑件 第二巻 (外務省外交史料館)
- 2) JACAR (アジア歴史資料センター) Ref. C 03011000900. 永存書類乙輯第1類 大正7年 (防衛省防衛研究所)
- 3) 池田竹二. 英皇太子殿下御来朝記念寫眞帖. 平和記念東京博覧會寫眞帖發行所. 1922
- 4) 可見弘明. 鵜飼—よみがえる民族と伝承—中公新書. 1996
- 5) 宮内庁宮内公文書館所蔵. 外賓接待録3 (英国皇太子殿下エドワード, アルバート親王殿下御来航ノ部) 1大正11年. 1922
- 6) 宮内庁宮内公文書館所蔵. 外賓接待録5 (英国皇太子殿下エドワード, アルバート親王殿下御来航ノ部) 2大正11年. 1922
- 7) 瀬戸敦子. 長良川鵜飼の観光アピールポイントの変化—英語版旅行ガイドブックを通して—. 岐阜女子大学紀要 第49号 pp33-42, 2019
- 8) 丸山幸太郎. 長良川鵜飼の本質. 岐阜女子大学地域文化研究. 第32号 pp 1-10, 2015
- 9) 最上孝敬. 原始漁法の民俗. 岩崎美術社. 1977
- 10) 和田直也. 長良川鵜飼の再編成—観光への変化と担い手に注目して—. 茨城地理8. pp 1-21, 2007
- 11) 渡辺みどり. 恋か王冠か 英国ロイヤル・ファミリー物語. 光人社. 1995
- 12) ベルトルト・ラウファー/小林清市訳. 鵜飼—中国と日本. 博品社. 1996
- 13) Francis Henry Salvin, Gage Earle Freeman *Falconry: Its Claims, History And Practice* 1859
- 14) Francis Henry Salvin, *Fishing with Cormorants*, 2018
- 15) Marcus Beike, *The History of Cormorant fishing in Europe*, Vogelwelt 133, pp 1-21, 2012
- 12) ぎふ長良川鵜飼ホームページ <https://www.ukai-gifucity.jp/ukai/> (2020年10月17日最終閲覧)

覽)

56

13) (公財) 日本交通公社 旅の図書館所蔵.
THE TOURIST Vol.X No. 11 Consecutive No. 54-

14) 朝日新聞復刻版大正編Ⅱ. 118. 大正11年4
月. 日本図書センター